



5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第3回実施報告

日時：2018年10月27日（土）13:45-16:00

場所：広島大学附属福山中・高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール

参加者：生徒21名、留学生10名、大学教員1名、本校教員4名、他校教員（見学）2名

実施内容

第3回IDEC連携プログラムでは、これまで発表していただいた留学生の研究課題に関連して、本校の生徒が多文化比較や国際理解の観点から、議論をしていきたい内容について、その課題を設定し、発表しました。今回は、「教育」と「平和」の分野で、5つのグループから行われました。

「若者の安定志向」と題した班は、海外留学者数の国際比較や留学への意識調査を基に、日本の若者が変化を求めて留学できるよう、政府が制度を考えるべきだと提案しました。

「特別支援教育」を課題に選んだ班は、イギリスとドイツの、対照的な制度のそれぞれ利点を分析し、制度のあり方を考えたいと述べました。「平和教育」を課題に選んだ班は、日本やドイツの例を紹介した後、戦争中に何が起きたかを学ぶことがその中心となっていることを指摘し、平和教育の目標や内容のあり方を考えたいと述べました。「難民問題」を課題に選んだ班は、ドイツやトルコの難民政策を紹介し、日本の難民政策が今後どうあるべきかを考えたいと述べました。「教育実習」をトピックとした班は、授業を受けている高校生の立場から、教育実習の改善の方向性について提案しました。

各班の発表終了後には、グループに分かれて、議論が進められました。留学生が各グループに2名ずつ加わり、質疑が行われたのち、リサーチクエスチョンや、リサーチの枠組みについて指摘があり、意見交換を通じて、高校生の理解が深められていきました。留学生からの指摘は、クリティカルで、質問を受けた生徒は、質問の鋭さに感嘆していたことが感想からわかりましたが、先行研究などを踏まえて自分たちの考えを主張する姿も見られ、準備したことへの責任感が現れていたように思われました。

広島大学の中矢先生からは、質問のみならず、研究方法や発表の構成についてもご指導をいただきました。特に、アンケート調査をする時には、研究の目的と目的に合致した母集団の選び方をすることと、発表の中で自分たちの意見を述べずに相手に質問を投げかけようとしている高校生が多いことへの指摘がありました。高校生の準備が不十分であるという指摘であり、反省すべきことでした。また、研究の目的を明確にすることで、課題や方法が明らかになり研究に一貫性が生まれるというご指導は、まだ



まだ研究に対して未熟な生徒にとってとても重要な視点であると感じました。オーディエンスに向かって説明するというアウトプット機会を通じて、発表者自身の理解の不十分なことがわかるというのは、研究を進めるうえでは大切なことです。そのことが、多くの生徒の感想に書かれていました。回数を経るにつれ、このプログラムに参加する生徒が、主体的に取り組む姿勢が強くなっている様子が印象的でした。



〔生徒の感想〕

○自分たちの作り上げたものが、いかに欠陥が多いかに気づかされた。自分に対してしつこいほど質問してみて、欠陥を埋めていこうと思う。思っていることを伝えられない。テーマ設定を明確にし、研究の基礎、核心の部分を言語化できるようにしないと支離滅裂な展開になる。何となくで進めないようにしたい。



○調べたことをもとに自分たちの意見を持っていたつもりではあったけど、さらに1つ深いところまで聞かれた感じがして、根拠や方法など、あまり深く考えずに自分たちの意見を語りすぎていたと思う。最終発表ではより意味のある発表になるよう効果と実現可能性を考えて提案するようにする。



○研究の目的を最初にはっきりさせておくことがとても重要だと感じた。自分の研究で達成したいことをしっかりと考え、明確にしていきたい。そのためにもまずは、自分の研究したいことの周辺の知識や状況をできる限り把握し、改善できることを見つけていきたい。

○プレゼンをして厳しい意見も頂き、たくさんの気づきがあった。今までよりは討論の理解ができるようになったが、時間内に意見がまとまらなかったのが残念だった。今回の意見を生かして、広島大学での発表に向けてより良いプレゼンテーションを作りたい。

○今回は、自分の調べたテーマではなかったが、これから調べていく上で重要なことがよく分かった。研究も手順に沿ってやっていかないといけないことだった。しかし、一番大事なことは、研究のテーマをはっきりさせていくことだと思った。今日のことを参考にしてこれから調べていきたい。

○仮説というのをどうすればいいのか、十分イメージがつかめていなかったもので、班の人とよく話をしなければいけないと感じた。今回のプレゼンを見て、まとめ方の方向性が何となく分かったので、考えられる質問はあらかじめ予想し、対策してから次の発表をやれたらいいと思う。学校内でアンケートをとることについても、母集団の特徴を理解して行うというのは、その結果の解釈にもとても重要なことだと思うので、心に留めておこうと思う。

○今回は発表の番でしたが、色々指摘をされました。準備期間が短かったとはいえ、残念な結果でした。でも、あまり自分の研究に指摘をされたことがなかったので、新鮮な感じで、ダメなところが分かってよかったです。今回の指摘を活かして、1月には教授を驚かせるようなものを作りたいです。